

横浜労災病院
歯科口腔外科卒後臨床研修プログラム

(2024年4月)

独立行政法人労働者健康安全機構
横浜労災病院
歯科研修管理委員会

目 次

I	概要	I-1
1	横浜労災病院について	I-1
2	歯科口腔外科卒後臨床研修プログラムについて	I-4
II	研修の実際	II-1
III	研修歯科医の処遇	III-1
IV	研修歯科医の採用について	IV-1
V	オリエンテーション	V-1

I 概要

1 横浜労災病院について

【規模と概要】

名 称：独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院

○病 床 数 650床

○診 療 科 内科、血液内科、糖尿病内科、代謝内科、内分泌内科、腎臓内科、腫瘍内科、リウマチ科、精神科、心療内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、新生児内科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科

○中央診療施設 中央検査部、輸血部、中央手術部、内視鏡部、中央放射線部、中央集中治療部(ICU)、新生児集中治療室(NICU)、臨床工学部、薬剤部

○専門センター 救命救急センター、勤労者メンタルヘルスセンター、消化器病センター、アスベスト疾患ブロックセンター、内分泌・糖尿病センター、呼吸器センター、循環器センター、脳卒中センター、がん治療センター、周産期センター、運動器センター・運動器外傷センター、こどもセンター、脳定位放射線治療センター、リウマチ・膠原病センター、包括的乳腺先進医療センター

○医 師 数 237名（研修医を除く）
歯科医師6名（研修医2名含む）、指導歯科医講習会受講者4名

○実 績

- ・一日平均入院患者数 514.8人（2023年4月～2024年2月）
- ・平均在院日数 10.2日（2023年4月～2024年2月）
- ・一日平均外来患者数 1,729.2人（2023年4月～2024年2月）
- ・年間分娩件数 579件（2023年4月～2024年2月）
- ・年間剖検件数 14件（2023年4月～2024年2月）
- ・一日平均救急外来患者数 69.5人（2023年4月～2024年2月）
- ・一日平均救急搬送患者数 28.4人（2023年4月～2024年2月）
- ・年間心肺停止状態搬送患者数 280人（2023年4月～2024年2月）

【病院の理念】

みんなでやさしい明るい医療

【病院の基本方針】

- 1 勤労者医療の展開
- 2 地域医療の支援
- 3 高度医療の実践
- 4 安全な医療の定着
- 5 救急医療の充実
- 6 優れた医療者の育成

【特色】

- 1 高度の労災医療及び勤労者医療並びに地域医療の提供
- 2 脳・循環器系疾患に対する専門的医療実施
- 3 24時間365日救急診療実施
- 4 総合的メンタルヘルスの実施
- 5 高度かつ専門的な医学的リハビリテーションの実施
- 6 新卒医師の臨床研修の実施
- 7 産業医の研修教育、地域医師会の生涯教育への協力

【学会専門医・認定医研修関係の指定】

＜内科系＞ 日本内科学会認定教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設、日本高血圧学会専門医認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本リウマチ学会教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医認定教育施設（呼吸器内科）、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本神経学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設

＜外科系＞ 日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設、日本整形外科学会整形外科専門医研修施設、日本手外科学会認定研修施設、日本形成外科学会専門医教育関連施設、日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所、心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本皮膚科学会認定主研修施設、日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設、呼吸器外科専門医認定修練施設（基幹施設）日本呼吸器外科学会心臓血管外科研修施設、日本乳癌学会研修施設

＜小児科＞ 日本小児科学会専門医研修支援施設、日本感染症学会認定研修施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）研修施設（基幹研修施設）

＜産婦人科＞ 日本産婦人科学会専攻医研修指導施設、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医制度指定修練施設、日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）研修施設（基幹研修施設）

- <眼 科> 日本眼科学会専門医制度研修施設
- <耳鼻咽喉科> 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医指定研修施設
- <心療内科> 日本心身医学会研修診療施設、日本心療内科学会専門医研修施設（基幹研修施設）
- <放射線科> 日本放射線腫瘍学会認定施設（認定協力施設）、放射線科専門医総合修練機関
日本 IVR 学会専門医修練認定施設
- <麻酔科> 麻酔科認定病院
- <中央集中治療部> 日本集中治療医学会専門医研修認定施設
- <病理診断部> 日本病理学会研修認定施設-B、日本臨床細胞学会認定施設
- <救命救急センター> 救急科専門医指定施設
- <歯科口腔外科> 日本口腔外科学会認定研修施設、顎関節症専門医関連研修施設
- <病 院> 臨床研修指定病院（医科・歯科）、臨床修練指定病院（外国医師・歯科医師）

【医療機能評価の認定】

財団法人日本医療機能評価機構 認定第 JC63-4 号(一般病院) 令和5年年12月18日
NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定 Pg0042-16 2022年8月1日

2 横浜労災病院臨床研修プログラムについて

【横浜労災病院における臨床研修の理念】

- 1 心のかよったやさしい医療を行える医師の育成。
- 2 高度な医療機能の活用と医師に要求される基本的臨床能力の習得をめざす。

【横浜労災病院における臨床研修の基本方針】

- 1 患者の健康上の諸問題に適時、的確に対応できる医師となるべく、患者を全人的に診ることができるプライマリ・ケアの基本的診療能力を修得させる。
- 2 医師、看護部門、コ・メディカル部門等との連携・協力によるチーム医療を実践し得るコミュニケーション能力を身に付けさせる。
- 3 労災病院で研修することの意味を考えさせ、高度な労災医療の知識を身につけさせるとともに、勤労者医療について理解させるように努める。
- 4 患者やその家族の立場に立った医療の実践ができるよう人格の涵養をめざす。

2 歯科口腔外科卒後臨床研修プログラムについて（管理型）

【プログラムの特色】

このプログラムは、横浜労災病院における歯科医師に対する卒後1年間の初期臨床研修プログラムである。横浜労災病院歯科口腔外科は、一般歯科領域・歯科口腔外科疾患に対応できる設備を有している。特に顎変形症に対する外科的矯正手術、顎顔面外傷、デンタルインプラント治療は症例数も多く、積極的に取り組んでいる。悪性腫瘍や口唇口蓋裂に対しては、形成外科・耳鼻咽喉科とのチームアプローチで治療を行っている。顎関節症に対しては病態に応じて、保存療法から関節鏡視下手術・関節開放手術など幅広い治療を行っている。また、口腔外科領域の救急対応はオンコール体制をとっており、これにより救急の臨床研修をおこなっている。

【プログラムの管理運営】

本プログラムの責任者は研修管理委員会委員の歯科医師である。本プログラムの管理運営は下記の研修管理委員会によって行なわれる。実際の研修にあたってはプログラム責任者が指導の責任を負う。

【歯科臨床研修の目標】

歯科臨床研修は、歯科医師が、歯科医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけることである。

【研修施設の概要】

・管理型臨床研修施設

施設名	独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院
所在地	横浜市港北区小机町3-2-1-1
臨床研修施設長	院長 三上 容司
プログラム責任者	歯科口腔外科部長 亀井 和利

・協力型（Ⅱ）臨床研修施設

施設名	ふたまたがわ歯科口腔外科
臨床研修を行う分野	訪問診療、一般歯科
所在地	神奈川県横浜市旭区二俣川2-50-14
臨床研修責任者	院長 中谷 逸希

施設名	中谷歯科医院
臨床研修を行う分野	訪問診療、一般歯科
所在地	神奈川県横浜市旭区左近山1-6-1 左近山団地 1-35-101
臨床研修責任者	院長 中谷 敏恭

【研修管理委員会】

臨床研修が適切に実施されるよう、臨床研修の実施状況の管理を行うとともに、研修プログラムの質の向上に努めることを目的に研修管理委員会を設置する。

また、研修歯科医にはそれぞれ担当のチューター決められるので、研修上のことに関して相談できる。

II 研修の実際

【横浜労災病院歯科口腔外科の特色】

当科は智歯の埋伏歯をはじめとした、あらゆる口腔外科疾患に対応できる設備を有しています。特に顎変形症に対する顎矯正手術、顎骨骨折などの顎顔面外傷、デンタルインプラントの治療に積極的に取り組んでいます。悪性腫瘍や口唇口蓋裂に対しては、形成外科・耳鼻咽喉科とのチームアプローチで治療を行っています。当院は日本口腔外科学会認定研修施設、顎関節症専門医関連研修施設、臨床研修指定病院（医科）・臨床研修施設（歯科）、臨床修練指定病院（外国医師・歯科医師）であるので各研修カリキュラムを満たすプログラムを構築しています。

【歯科臨床研修の基本理念】

歯科臨床研修は、歯科医師が、歯科医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけることである。

I 到達目標

A 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B 資質・能力

1 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5 コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6 チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

C 基本的診療業務

1 基本的診療能力等

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

- ・研修内容：初診患者に対し、①から⑥までを一連で実施する。
- ・症例数：12症例

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
 - ・研修内容：初診時医療面接、再診時医療面接
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を

解釈する。

- ・研修内容：口腔内診察、頭頸部診察、各種検査の必要性の判断、診療所見の解釈
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
 - ・研修内容：エックス線検査、咬合検査、咀嚼能力検査、歯周組織検査、検査結果の解釈
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
 - ・研修内容：担当患者の診断に関する口頭試問
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
 - ・研修内容：診療計画に関するカンファレンス参加、プロトコール作成
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。
 - ・研修内容：患者への病状説明、インフォームドコンセント、同意書の取得

(2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
 - ・研修内容：ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布
 - ・症例数：30 症例
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
 - a. 歯の硬組織疾患
 - ・研修内容：コンポジットレジン修復、インレー修復
 - ・症例数：10 症例
 - b. 歯髄疾患
 - ・研修内容：歯髄保護処置、抜随、感染根管処置
 - ・症例数：5 症例
 - c. 歯周病
 - ・研修内容：歯周組織検査、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整、暫間固定、歯周外科処
 - ・症例数：20 症例
 - d. 口腔外科疾患
 - ・研修内容：簡単な抜歯を実践する。
 - ・症例数：30 症例
 - e. 歯質と歯の欠損
 - ・研修内容：クラウン補綴、部分床義歯、全部床義歯 旧義歯調整
 - ・症例数：20 症例
 - f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
 - ・研修内容：高齢者の摂食嚥下機能訓練、口腔筋機能療法
 - ・症例数：3 症例

- ③ 基本的な応急処置を実践する。
 - ・研修内容：救急を要する患者または外傷を持つ患者に対して、適切に処置し、必要に応じて専門医に診療を依頼することができる。疼痛、外傷、修復物脱離、義歯破損への対応
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
 - ・研修内容：担当患者の診療に必要なバイタルサインを測定し、全身状態を評価する。
 - ・症例数　：20症例
- ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

(3) 患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
 - ・研修内容：高血圧および糖尿病で医科診療中の患者に、歯科治療上の問題点と服用薬剤等について説明する。
 - ・症例数　：4症例
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
 - ・研修内容：心拍および血圧の状況に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う
 - ・症例数　：4症例
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
 - ・研修内容：入院時の医療面接、入院患者の食事形態の評価、クリニカルパスの作成などを行う。
 - ・症例数　：20件

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。
 - ・研修内容：協力型（Ⅱ）臨床研修施設において、在宅患者を訪問し、全身状態を確認しながら歯科診療を行う。
 - ・症例数　：1症例

2 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1) 歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。
- ④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。
- ⑤ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療および会議等に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ⑥ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
- ⑦ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

10 症例数

- (1) 到達目標達成に必要な症例数 合計 107 症例
(各目標症例数の6割以上を経験。かつ、1症例以上経験)
- (2) 経験することを目標とする症例数 合計 179 症例
* 症例数の数え方は、治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)

【歯科臨床研修のねらい】

- 1) 歯科医師として好ましい態度・習慣を身に付け、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する(高い倫理性と豊かな人間性)。
- 2) 全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- 3) 歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身に付ける。
- 4) 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- 5) 歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
- 6) 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身に付ける。
- 7) 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、自発的に学習し、生涯研修の意欲への動機付けをする。
- 8) 歯科医師の社会的役割、責任感を認識し、実践する。
- 9) 後輩の医師に対し指導できる能力を有する。
- 10) 自己の能力の限界を自覚し、他の専門職と連携する能力を有する。
- 11) 幅広い臨床実務を経験し歯学部で学んだ基本的知識・技術・態度を体系化する。
- 12) 医療人としての自己を見つめ直し、「医の心」を十分に考える。
- 13) 臨床経験を通じ、総合的視野、創造力を身につける。
- 14) 科学的思考力、応用力、判断力を身につける。
- 15) 医療関係者の業務を知り、チーム医療を率先して実践することを学ぶ。
- 16) 医療における経済性を学ぶ。

3 研修方略

【タイムスケジュール】

- ・ 管理型臨床研修施設である横浜労災病院において11ヶ月の研修を行う。これと共に協力型(Ⅱ)臨床研修施設において20日の研修を行い訪問診療の経験を積む。
- ・ 管理型臨床研修施設

	午 前	午 後	救急・その他
月	手術日(中央手術部での手術実習) 外来・病棟実習	午前に同じ	救急部実習(オンコール)
火	外来診察・病棟実習	外来手術	救急部実習(オンコール)
水	外来診察・病棟実習	特殊外来・緊急 手術	救急部実習(オンコール)
木	手術日(中央手術部での手術実習) 外来・病棟実習	午前に同じ	救急部実習(オンコール) 症例検討会(カンファレンス)
金	外来診察・病棟実習	外来手術	救急部実習(オンコール)
土	病棟・救急部実習(オンコール)		
日	病棟・救急部実習(オンコール)		

※ 1) 口腔外科手術日は月、火、木であるが緊急手術も行う場合がある。

- 2) 毎週木曜日はカンファレンスにて症例を検討し、治療方針の決定、術式の決定を行う。
- 3) 救急部実習(オンコール)は曜日指定あり。

【院内カンファレンス】

レジデントカンファレンス、合同カンファレンス・臨床病理カンファレンス(CPC)・医師会合同カンファレンス、がんセンターボードなどの院内カンファレンスに積極的に参加しなければならない。院内カンファレンスへの出席は歯科口腔外科の業務よりも原則的に優先とする。

【研修の到達度評価方法】

終了判定を行う項目

- ①研修歯科医を評価する評価表
- ②他職種評価表(病棟師長、外来歯科衛生士)
- ③症例数
- ④症例発表

〈修了判定を行う基準〉

- ①指導歯科医が評価を行い、A及びB評価が全評価項目の8割を超えている。
- ②研修病棟の看護師長・外来歯科衛生士が評価を行い、B以上の評価である。
- ③必要症例数を達成している
- ④研修修了報告会で症例発表を1回行っている。

【臨床研修終了の認定】

指導歯科医の評価結果がA及びB評価が8割を超えており、研修病棟師長及び外来歯科衛生士の評価がB以上であること。必要症例数を達成していること。研修修了報告会で症例発表がなされたことに基づき、プログラムの研修修了を認定する。研修修了が認定された者には、研修管理委員会において1年間の本プログラムの研修修了と認定し、卒後臨床研修修了書を交付する。研修が不十分とされた者や途中で研修を中止した者には研修管理委員会で認定できる範囲での研修証明書を発行する。なお、追加研修の可否は研修管理委員会で決定する。

【臨床研修を行う分野】

一般歯科・口腔外科学・歯科領域における救急医療を主軸に隣接領域の臨床研修(麻酔科研修、病理学他)も含む

【基礎研究を行う分野】

生化学・生理学・画像診断学

研修内容：顎関節症患者から採取された関節液から蛋白質濃度を測定する。
(遠心分離、ELISA法、クリーンベンチを使用)

【研修期間】

臨床研修は毎年4月より開始し、1年間（3月31日まで）で修了する。

全ての研修歯科医に共通するオリエンテーションを1週間（平日5日間）、研修開始時期に実施する。オリエンテーション期間中は診療科には所属しない。オリエンテーションの具体的な日程に関しては別表（IV-1, 2）参照のこと。希望により研修期間を1年延長（最長2年間までとし、研修終了判定は1年目で行い2年目は希望者のみ）する事が可能である。

1 管理型臨床研修施設

- ① 研修期間 11ヶ月（4月～3月までのうち協力型〈Ⅱ〉臨床研修施設での研修期間は除く11ヶ月）
- ② 研修内容 一般歯科・口腔外科学・歯科領域における救急医療を主軸に隣接領域の臨床研修（麻酔科研修、病理学他）も含む

2 協力型〈Ⅱ〉臨床研修施設

- ① 研修期間 20日（管理型臨床研修施設の研修期間中に設定）
- ② 研修内容 訪問診療・一般歯科

【研修歯科医の指導体制】

指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う（患者配当型）。担当した指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、指導する。不足している症例がある場合は、指導歯科医の症例を配当する（症例配当型）。

研修責任者

歯科口腔外科 部長 亀井 和利

指導歯科医

歯科口腔外科 部長 亀井 和利

歯科口腔外科 副部長 高橋 康輔

医局長 鈴木 雄祐

ふたまたがわ歯科口腔外科 院長 中谷 逸希

研修担当医

田島 麻衣

Ⅲ 研修歯科医の処遇

- 1 身 分：歯科研修歯科医（常勤嘱託職員）
- 2 勤務時間：8時15分～17時00分
但し、カンファレンスなど時間外の予定あり。
- 3 休憩時間：12時15分～13時00分（当院就業規則）
- 4 休 日：土日祭日、年末年始（12月29日～1月3日）
健康と福祉の事業創設記念日
年次有給休暇 12日
- 5 当直勤務：なし。ただし、時間外診療に対処するため待機当番あり。
- 6 給 与：月額300,000円
*時間外勤務手当等の手当有
- 7 社会保険等：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険
- 8 歯科医師賠償保険：病院が加入。1事故1億円までは保証されている。
近年、賠償額が高騰し、病院の責任以外に研修歯科医個人の責任が迫及され、個人の賠償となる例も出ているため、個人で歯科医師賠償保険に加入することを原則としている。保険料は個人負担（年間約5千円）。保険加入後に診療研修を許可する。
- 9 妊娠・出産・育児に関する施設及び取組
 - ①研修歯科医は院内保育園「ティンカーベル」を利用できる。
 - ②妊娠中の体調不良時は、9階女性医師専用仮眠室にて休憩できる。
 - ③ライフイベントについての相談窓口は、医師臨床研修センター
- 10 その他：健康管理、福利厚生、院内施設利用、諸活動等は正規職員に順ずる。病院内に研修歯科医室があり、各自机椅子は用意される。
- 11 院外の研修活動：学会、研究会などへは指導歯科医とともに積極的に参加することとする。学会参加費、交通費などの参加に伴う費用については、別に定める。（所属長許可のうえ医師学会旅費として一部支給される場合あり。）
- 12 院外の医療活動：院外での医療活動等で収入を得ること（いわゆるアルバイト）は、一切禁止とする。
- 13 宿舎：あり（有料：月額15,000円程度、病院敷地内マンション形式、全個室、冷暖房完備、駐車場有料）

IV 歯科研修歯科医の採用について

【マッチング参加】

「横浜労災病院歯科口腔外科卒後臨床研修プログラム」は歯科医師臨床研修マッチング協議会が行うマッチングに参加する。

【応募資格】

歯科医師国家試験既合格者および令和4年度末に合格予定の者で、当院での1年間の初期臨床研修を希望し、歯科医師臨床研修マッチング協議会がおこなうマッチングに参加する者。

【募集定員】

1 学年 1 名

【採用者選考】

1 申し込み

次の書類を添えて申込締切日迄に到着するよう書留郵便にて送付のこと。なお、書類受付の確認は受験票の送付をもってかえる。

- (1) 履歴書（市販JIS規格A4若しくはA3サイズ・捺印、証明用写真貼付）
- (2) 成績証明書
- (3) 卒業見込証明書
- (4) 健康診断書（大学所定のもの。様式は問わない）
- (5) 返信用封筒（長3封筒に84円切手を貼り付けること）

書類送付・連絡先

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211

横浜労災病院 医師臨床研修センター 宛

TEL : 045(474)8111（内線 : 8910）

2 申し込み締め切り

8月上旬必着予定（詳細は病院ホームページ参照）

3 試験期日

8月下旬予定（詳細は病院ホームページ参照）

試験の際、宿舎への宿泊（1,100円/日）を希望される方は上記まで連絡。

4 試験内容

(1) 筆記試験

形式：記号選択問題および記述問題

(2) 小論文試験

(3) 面接試験

面接は1名10分程度

5 試験場所

横浜労災病院管理棟3階AV講義室他予定（詳細は病院ホームページ参照）

【試験合格者】

マッチング結果発表後仮契約を行い、4月1日研修開始予定

【問い合わせ・病院見学申し込み】

このプログラムについての問い合わせは下記の連絡先まで
病院見学・実習も随時受付（有料宿舎あり，1泊1,100円）

※問い合わせ、病院見学申込は

医師臨床研修センター : kenshu-jimu@yokohamah.rofuku.go.jp
または電話 045-474-8111(内線 8910)まで

V オリエンテーション

2024年度 研修医オリエンテーション						
日	時間	分	場所	研修内容	担当者	
1 日目	8:15		9F 研修医室	集合	医師臨床研修センター	
	8:30～		3F AV講義室	アイスブレイク（漢字一文字で自己紹介）	医師臨床研修センター	
	9:00～		3F AV講義室		平澤副院長	
	9:30～9:50	20	3F AV講義室	スケジュール確認等	医師臨床研修センター	
	10:00～12:15	195	看護学校体育館	病院共通オリエンテーション	総務課	
	13:00～13:30	30	3F AV講義室	横浜労災病院での研修にあたって	三上病院長	
	13:30～14:00	30	3F AV講義室	労働者健康安全機構と当院の概要等について	小野山事務局次長	
	14:00～14:45	45	3F AV講義室	プロフェッショナルリズム	田中医師臨床研修センター 副センター長	
	14:45～15:30	45	3F AV講義室	研修プログラム/これからの研修について	中森医師臨床研修センター長	
	(月)	15:30～17:00	90	3F AV講義室	ローテーションの作り方、ローテーション調整	2年次研修医（小谷先生・野嶋先生） 中森医師臨床研修センター長
	17:00～18:00	60	3F AV講義室	診療科アビール	各診療科	
2 日目	8:15～11:45	210	3F AV講義室 9F 会議室	ER研修について 救急・災害医療実習 BLS	中森救急災害医療部長 竹下先生・柴崎先生	
	12:30～14:00	90	3F AV講義室	チームダイナミクス	七尾医師臨床研修センター 副センター長	
	14:05～14:45	40	3F AV講義室	診療情報について	診療情報管理室・中山先生	
	a 班	30	地下 薬剤部	薬剤業務について	山野薬剤副部長	
	14:50～15:50	30	2F 放射線部	放射線部について	竹内中央放射線部長（大澤主任）	
	b 班	30	2F 放射線部	放射線部について	竹内中央放射線部長（大澤主任）	
	14:50～15:50	30	地下 薬剤部	薬剤業務について	山野薬剤副部長	
	(火)	16:00～17:00	60	3F AV講義室	ローテートスケジュール調整	中森医師臨床研修センター長
		17:00～18:00	60	3F AV講義室	診療科アビール	各診療科
	3 日目	8:20～8:50	30	3F AV講義室	看護部について	横館看護部長
9:00～12:15		195	各病棟	病棟看護体験	看護副部長、各病棟棟長、各病棟棟長補佐	
13:00～14:00		60	3F AV講義室	メンタルヘルスについて	山本メンタルヘルスセンター長	
14:05～14:55		50	3F AV講義室	病理検査・剖検について	角田病理診断科部長	
a 班		80	4F 中央手術室	手術室への入り方・手洗い実習	水谷総合手術センター長/長嶺認定看護師	
15:00～16:20		80	4F ICU	集中治療室について（ICU見学）	西澤中央集中治療部長	
			3F 図書室	図書室の利用法・文献検索法	林図書司書	
b 班		80	3F 図書室	図書室の利用法・文献検索法	林図書司書	
15:00～16:20		80	4F ICU	集中治療室について（ICU見学）	西澤中央集中治療部長	
			4F 中央手術室	手術室への入り方・手洗い実習	水谷総合手術センター長/長嶺認定看護師	
(水)	16:30～17:00	20	3F AV講義室	ローテートスケジュール調整		
	17:00～18:00	60	3F AV講義室	診療科アビール	各診療科	
4 日目	8:30～9:00	30		医療機器の安全な取り扱いについて	臨床工学部 伊藤技師	
	9:00～9:30	195	3F AV講義室	①採血に当たっての注意点	感染認定看護師：宇田師長、西村看護師	
	9:30～12:30			②ルートの取り方、採血の仕方、点滴の作り方等の実習	2年次研修医（齊藤先生・山本先生）	
	13:15～14:15	60		③初期研修医事始め：おすすめの教科書	2年次研修医（白土先生）	
	14:20～15:20	60	9F 操作室	④電子カルテ操作：カルテ登録セット等	2年次研修医（岡田先生・藤田先生）	
	15:30～16:30	60	3F AV講義室	PG-Epoc2について	医師臨床研修センター	
	16:30～17:00	30	3F AV講義室	ローテートスケジュール調整		
	(木)					
5 日目	8:15～10:00	90	3F AV講義室	院内感染予防について	感染認定看護師：宇田師長、西村看護師	
	10:00～11:00	60	3F AV講義室	医療安全について	医療安全管理者：行谷師長・富山師長	
	11:00～12:00	60	3F AV講義室	インスリン製剤とその使い方	鶴谷糖尿病内科部長・糖尿病内科医師	
	13:00～13:45	45	3F AV講義室	検査システムについて	中村中央検査部部長	
	a 班	120	3F 輸血部	輸血について・交叉適合試験実習	主任検査技師	
	14:00～16:00		3F 細菌室	細菌グラム染色実習	主任検査技師	
	b 班	120	3F 細菌室	細菌グラム染色実習	主任検査技師	
	14:00～16:00		3F 輸血部	輸血について・交叉適合試験実習	主任検査技師	
	16:00～16:50	50	3F AV講義室	ローテートスケジュール調整	中森医師臨床研修センター長	
	(金)	16:50～			最初の研修先へ	